

## 口唇高さが口元の審美性に与える影響についての検討

### ・はじめに

顔の審美性は、その顔貌を有する個人における個性の育成や社会的交流を円滑に行う上で、大きな影響を及ぼすといわれています。このことから、口元を閉じた時およびスマイル時の審美性評価は矯正歯科において非常に重要となります。本調査では、口元閉鎖時およびスマイル時における口唇高さが審美的評価に及ぼす影響に着目し、アンケート調査を行わせて頂くことになりました。矯正治療患者さんが求める審美的な口唇形態の傾向を明らかにすることは、治療目標の設定という観点からも有意義であると考えられます。

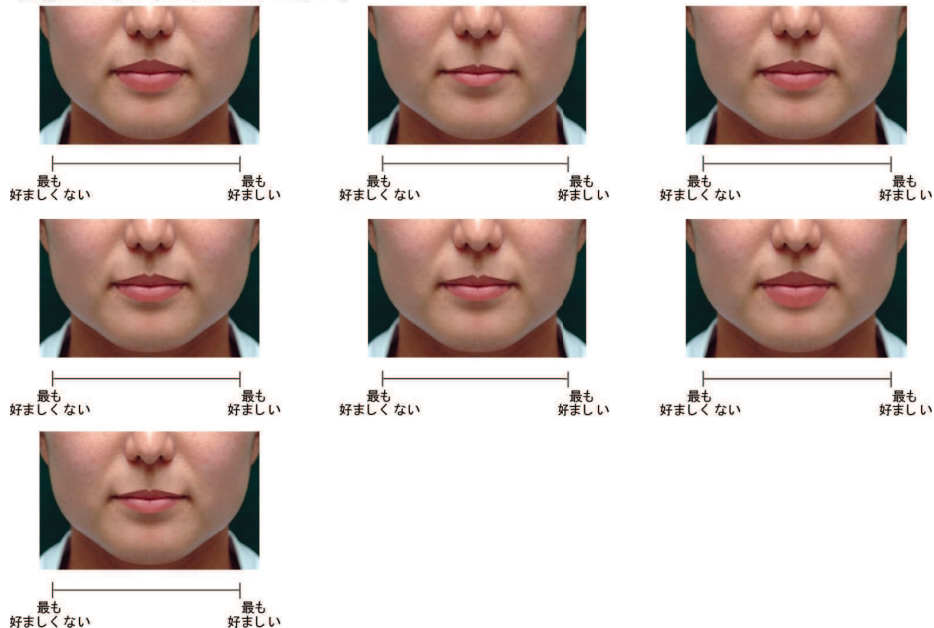
### ・対象

本研究の目的を理解し、本研究への参加の同意が得られた九州大学病院矯正歯科にて治療を行っている15歳以上の患者さん、男女計100名とし、各口元の写真に対し審美的評価を行って頂くようお願いします。対象者には説明文書を用いて説明し、アンケートの提出を以て同意とします。

### ・研究内容

コンピュータソフトウェアを用いて、口唇の高さを平均的高さから $-3.0\text{mm}$ ~ $+3.0\text{mm}$ まで $1\text{mm}$ 間隔で変化させた口元閉鎖時およびスマイル時の口元写真をご覧頂き、その好ましさ、魅力度を評価して頂きます。統計分析を用いて、審美的に好ましいと評価されるスマイルについてその傾向を明らかにします。

以下のスマイル写真に対し、その好ましさ（魅力度、美しさ）をそれぞれの写真の下にある直線上に印（×）で示してください。



以下のスマイル写真に対し、その好ましさ（魅力度、美しさ）をそれぞれの写真の下にある直線上に印(×)で示してください。



- 患者さんの個人情報の管理について

本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。回答済みのアンケート調査用紙は、施錠できる資料庫にて保管します。個人情報の管理は、個人情報管理責任者である九州大学大学院歯学研究院歯学部門口腔保健推進学講座歯科矯正学分野・教授・高橋 一郎の責任の下、厳重な管理を行います。

- 研究期間

研究を行う期間は承認日から 2014 年 3 月 31 日までです。

- 医学上の貢献

矯正治療患者さんが求める審美的な口元閉鎖時およびスマイル時の口唇高さの傾向を明らかにすることは、矯正歯科臨床において、治療目標の設定や評価に有効なものとなり得ると考えます。

- 研究機関

研究責任者：九州大学大学院歯学研究院歯学部門口腔保健推進学・教授・高橋 一郎

研究分担者：九州大学病院歯病矯正歯科・講師・五百井 秀樹

九州大学病院歯病矯正歯科・医員・下村 卓弘

研究事務局：九州大学大学院歯学研究院歯学部門口腔保健推進学歯科矯正学分野医局

連絡先担当者：九州大学病院歯病矯正歯科・講師・五百井 秀樹

電話番号：092-642-6462

E-mail: [ioi@dent.kyushu-u.ac.jp](mailto:ioi@dent.kyushu-u.ac.jp)